

北沢の不法投棄の 解決に向けて(17)

今まで、馬頭最終処分場について説明をしてきました。今回は、「どうして最終処分場が必要なのか」というところから、栃木県内のゴミ事情についてご説明いたします。

皆さんは、栃木県内で1年間に処理されるゴミの量をご存知でしょうか？

まず、産業廃棄物ですが、平成16年度の調査によると、推計で872万トンのゴミが排出されており、東京ドーム約25杯分になっています。工場などでは、再生利用できるものは極力資源として再生利用し、これ以外のものについては、焼却、圧縮、破砕などを行なったうえで、最終処分場で埋め立て処分されています。

また、一般廃棄物は、一般家庭から出る生活系のゴミが54万ト、役所や事業所から出る事業系のごみが24万ト、合計で78万トのゴミが排出されており、これは、東京ドーム約2杯分になります。県民1人1日当たりになると1、062gを出していることとなります。

市町村は、このゴミを可燃物、不燃物、リサイクルできるもの等に分別回収し、リサイクルできるもの(スチール、アルミ、ペットボトル等)は事業者に販売し、これ以外のものについては、焼却、圧縮、破砕などを行なったうえで、市町村等が管理する最終処分場や民間の最終処分場で埋め立て処分しています。(南那須地区広域行政事務組合では現在、県外にある民間の処分場に委託処理していますが、地域内処理が原則です)

このような大量のごみは、処理に多くの時間と経費をかけなければならず、さらに、最終処分場の不足などの問題を引き起こしています。

このため、リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用)の推

進によって、ごみの減量化を促進し、環境への負荷の少ない循環型社会の構築を図っていく必要があります。

しかしながら、現在では、ごみの排出抑制や循環的利用を進めた上でも、どうしても再利用できないごみが残りますので、最終処分場は必要不可欠な施設なのです。



不法投棄現場周辺にかかる 水質分析結果について

(平成18年度年間変動調査分(ダイオキシン類))

小口字北沢地内不法投棄現場周辺の水質分析結果をお知らせします。

- 調査項目 ダイオキシン類
- 採水日 平成18年11月13日
- 採水場所
 - 1 周辺環境水
 - (1) 投棄地直下河川
 - (2) 小口川上流
 - 2 投棄現場
 - (3) 投棄地下流側浸出水
- 調査結果 ⇒周辺への汚染拡大の兆候は認められない。

3つのR

① 発生抑制 リデュース Reduce

使う量、買う量を減らす

- 商品を買うときは、包装が簡素なものを選ぶ。
- 丈夫な製品を、長く愛用する。 など

② 再利用 リユース Reuse

くり返し何度も使う

- 一度使った牛乳ビンやビールビンなどをくり返して使う。
- 古着などは、フリーマーケットに出す。 など

③ 再生利用 リサイクル Recycle

再生して使う

- 古新聞や古雑誌を再生して、トイレトペーパーとして使う。
- ごみは分別して出す。 など

2月9日～5月31日

春の山火事防止強調運動

昭和52年3月15日、黒羽町・馬頭町の森林1、518 haを焼失した大火を教訓に、二度とこのような大災害に遭うことがないように、毎年3月15日を「栃木県山火事防止デー」として、山火事予防の運動を実施しています。

防災フェアの開催

日時 3月25日(日) 午前10時～12時

(雨天中止)

場所 那須烏山市保健福祉センター駐車場
(那須烏山市田野倉85-1)

内容

- ・消防車両の展示
- ・防災航空隊ヘリコプターによる救出訓練・消火訓練
- ・住宅用防災機器の展示説明
- ・救急蘇生法体験
- ・起震車による地震体験
- ・救助工作車による体験
- ・煙体験ハウスによる煙体験
- ・水消火器による消火体験
- ・炊き出し訓練

◎開催場所(駐車場)への駐車はできませんので、近くの駐車場をご利用下さるようご協力ください。

問い合わせ 南那須地区広域消防本部警防課

☎ 0287-82-2009

「ありがとう」



国際交流員
アンドリュー・シューク

那珂川町には古くからの伝統文化が残っており、町民の皆さんにも趣味が色々あると思います。私はそば作り、焼き物作り、それから茶道の体験をさせていただきました。

また、ほかの教会にも参加していました。人数が多くてオーケストラを持っている教会もありました。そのオーケストラにはバイオリン、フルート、トランペット、クラリネットなどもありました。合唱する人もいました。練習はだいたい毎週日曜日の礼拝が終わった後でした。何人かのメンバーと一緒に近くにある店で昼ごはんを食べていました。一緒に演奏するだけより、一緒に食べたり笑ったり、そして話をしたりすればするほど合奏がうまくできるようになり、また聴き手にも感動させられます。そのオーケストラの会員は中学生から中高年でした。

その経験の前に、カナダの首都であるオタワ市にある市民のブラスバンドにも参加していました。学生からおじいさんまでの様々な年齢の人がいました。誰が何歳か、何の仕事をしているかということに関わらず、お互い音楽が好きで集まっていただけでした。私の初めての日本人の友だちとはそのブラスバンドで知り合いました。その友だちが「ありがとう」という言葉を教えてくださいました。那珂川町のO|iO|iの皆さんにもその教えてもらった言葉で伝えたいです。「ありがとう」!

私はカナダの大都会のトロント市にある教会で合奏をしていました。そこでは、ピアノ、ギター、オルガン、フルート、ドラム、そして私がサクスを吹き合奏を